

第2期中富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略

中富良野町役場企画課未来戦略係



北星山ラベンダー園から見る十勝岳連峰の眺望

はじめに

中富良野町は、北海道のほぼ中央に位置し、北東は上富良野町、南は富良野市、西は芦別市、北の一部で美瑛町と接しています。東西17.9km、南北13.4km、総面積108.65km²の町で東部は十勝岳を主峰とする千島火山脈が連なっており、遠く大雪山を眺望することができ、南西は夕張山脈が南北に縦走し、夕張岳、芦別岳が富良野原野の景観をなしています。

本町は豊かな自然と広大な農地を活かし、稲作を主体とした農業の町として発展してきました。現在、水稲や麦類をはじめ、玉ねぎや馬鈴薯、南瓜、スイートコーン、アスパラガス、メロンなど多品目の野菜類が生産されています。

また、本町は北海道ラベンダー観光発祥の地として全国的にも有名な「ファーム富田」をはじめ、北星山ラベンダー園やフラワーパーク、森林公園などの観光施設が整備された北星山一帯、ゴルフ場や温泉施設の他、数多くのペンションやホテルなどの宿泊施設があり、国内外から毎年多くの観光客が訪れています。

人口の推移と将来展望

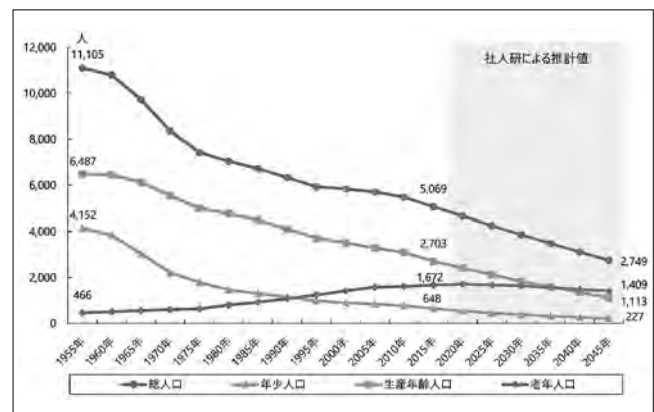
本町の人口は、1955年（昭和30年）の11,105人をピークに減少傾向にあり、2023年度（令和5年度）末には4,558人まで減少しています。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）によると、2045年（令和27年）時点では2,749人となり、ピーク時の人口の1/4程度（24.8%）に減少すると推計されています。

また、人口動態については、出生数・死亡数については死亡者数が出生数を上回っている状況が続いており、さらに人口に占める高齢者の割合が高まっていることから死亡数が多くなっている傾向（自然減）にあります。

また、合計特殊出生率は2013年（平成25年）から5年間の平均で「1.46」と全国や北海道と比較して若干高い水準を保っているものの、子どもを産み育てる世代の女性の減少により出生数は大きく減少しています。

一方、転入数・転出数については、一時的に転入数が転出数を上回った時期もありますが、概ね転出超過（社会減）が続いています。特徴としては、男性では20代、30代で転入、転出ともに多くなっており、就職等を機に人口移動があると考えられ、女性では10代、20代、50代、60代で転出超過となっています。



中富良野町の人口の推移と推計

中富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

第1期総合戦略（平成27年度～令和2年度）では、人口維持に必要な安定した雇用及び生活を実現するために3つの戦略方針「持続性のある農業の構築」、「地域に広げる観光の波及効果」及び「住まいと移住者への対応の充実」を掲げ人口減少の課題解決に向けて、数値目標及び重要業績指標（KPI）を設定し事業を進めてきましたが、人口減少は予想を上回るペースで進みました。

第2期総合戦略（令和3年度～令和7年度）では、第1期総合戦略の検証結果に加え、町民アンケート調査を実施し課題や町民ニーズを把握するとともに、各関係団体へのヒアリング調査により今後のまちづくりに対する提案等の聞き取りを行い、SDGsなど社会情勢を反映した視点を考慮して、4つの基本目標と2つの横断的目標を定めました。

基本目標と基本施策

【基本目標1】 中富良野町の特性を活かした経済基盤の発展（産業の拡大と雇用の創出）

地域の資源を活かした産業振興、企業誘致、起業支援等に関係機関が連携して取り組み、経営基盤の強化及び活性化を図り、多様で魅力的な雇用の場をつくるとともに、人材の育成、確保と、その活躍を促進します。

- 施策1 人づくり・食づくりの推進
- 施策2 生産を強化するシステムづくりの推進
- 施策3 商工業経営の安定化・活性化
- 施策4 観光等の交流拠点づくり

【基本目標2】 中富良野町への新しい人の流れを生み出す（交流・関係・定住人口の拡大）

就職、UIJターン、住宅取得等、さまざまな転出入の特徴に応じた転出抑制、転入支援で定住人口増加に向けた対策を実施するとともに、観光等による交流人口や関係人口の拡大に向けて町民、関係機関が連携して取り組み、本町の魅力を積極的に発信することで、誘客の促進と関係性の構築に努めます。

- 施策1 広報・広聴の充実
- 施策2 定住・移住促進施策の推進
- 施策3 地域おこし協力隊の活用
- 施策4 他地域との交流の推進
- 施策5 テレワーク・ワーケーションの推進

施策6 健全な財政運営の推進

【基本目標3】 子育てが、子ども自身が幸せを感じる環境づくり（結婚・出産・子育て支援の充実）

結婚を望む人や子どもが欲しい人の希望がかなえられる社会の実現に向け、地域の実情に応じたきめ細かな支援を行います。家庭や職場等でのジェンダー平等、女性の活躍、仕事と出産・子育ての両立等、仕事と生活、社会活動の調和と実現に向け、地域社会、教育機関、企業等と連携して取り組みます。

- 施策1 地域における子育ての支援
- 施策2 母子保健の充実
- 施策3 仕事と子育ての両立支援
- 施策4 「生きる力」を育む教育の推進

【基本目標4】 誰もが住みたくなる魅力あるまちづくり（まちの魅力化）

誰もが安全・安心でいつまでも健康に過ごすことができるよう、効率的で効果的な行政運営を推進するとともに、地域の多様な担い手の参画と地域内外の連携を図り、買い物、医療、教育、地域交通、災害、感染症等の課題解決と、個性（地域資源）を活かした地域の魅力化に取り組み、支え合いのまちづくりを推進します。

- 施策1 生涯にわたる健康づくりの推進
- 施策2 防災・減災対策の強化
- 施策3 空き家対策の推進
- 施策4 地域公共交通の維持・充実
- 施策5 地域ぐるみの防犯・交通安全環境の整備
- 施策6 健康寿命の延伸に向けた取り組みの推進

【横断的基本目標1】 つながりで育む生涯活躍のまち（一人ひとりが中富良野町の主役であるために）

少子高齢化が進む中、地域でお互いに支え合い助け合う、「つながり」の重要性が再認識されています。すべての分野で担い手が不足すると、まち全体の活力低下が懸念されるため、一人ひとりが本町の担い手として活躍できる環境づくりを推進します。

- 施策1 コミュニティの維持・強化
- 施策2 誰もが活躍する社会の実現

【横断的基本目標2】 未来を見据えた快適に暮らせる環境の整備（新しい時代の流れを力にした持続可能なまちづくり）

本町が将来にわたって持続的に発展するためには、各種施策の推進はもちろん、それらを支える生活基盤の整備が必要です。Withコロナ（Afterコロナ）の時代において情報化を推進するとともに、本町を次世代に引き継げるよう持続可能なまちづくりを展開します。

施策1 地域における情報通信環境の充実

施策2 持続可能なまちづくり

取組事例1

テレワーク施設2棟を整備しました。

「まちなかオフィス」は、中富良野駅から徒歩2分、国道にも面していますので車でのアクセスもしやすく、気軽にご利用いただけます。コワーキングスペースとして、Web会議用の個室があり、周辺には飲食店やコンビニ、役場庁舎等の公共施設もあります。

「本幸ラボ」は、町の中心部から約10km離れた十勝岳連峰の麓にあった旧小学校をワーキングスペースとして改修しました。ワーキングスペースの他、Web会議スペースやフリースペース、地域交流スペースなど多目的に使用できる施設です。大自然に囲まれた緑豊かな場所で、眼下に田園風景も一望できるなど心身ともにリラックスしながら仕事をするすることができます。



テレワーク施設「まちなかオフィス」

取組事例2

町のプロモーション冊子「ナカフライフ」を発行しました。

町の地域資源や魅力、生活はまちづくりを語る上で大切なキーワードです。中富良野町に住んでいる人たちにとって「誇りに思うことのできる町の魅力」は、移住を考えている人たちにとっても深く心に響くので

はないかと考えています。

この冊子は町での暮らし、田園風景、花の魅力、畑と食卓の幸せな距離感、雪の可能性、富良野圏域で体験できる広域的な魅力、宇宙を近くに感じさせる星空や町に根ざした文化など、さまざまな業種の人たちの協力を得ながら一から作り上げました。



タウンプロモーション冊子「ナカフライフ」

おわりに

新しく整備したテレワーク施設を活用して、新たな人の流れを生み出すための取り組みとして、キーワードは人・交流・コミュニティ。

新たな人とのつながりから「中富良野町に行ってみよう」、「中富良野町で何かをやりたい」などと思ってもらえるきっかけづくりと、その思いをサポートできる体制や仕組みづくりを進めています。

日本全体で人口が減少し、多くの自治体では人口の流出をくい止めるための人口減少対策が結果として人口を取り合う状況の中で、これからの世代に魅力ある社会を引き継ぐために地域特性を考慮し、かつ広域的な視点を持ちながら、持続可能なまちづくりを目指していきます。